法人40年の記録

社会福祉法人
小千谷北魚沼福祉会

[基本理念]

みんなが笑顔 みんなの喜び みんなで満足

利用者の皆様が自分らしく、地域で安心して暮らせる福祉サービスを提供します。
私たちは、利用者の皆様はもとより、家族・地域・ボランティア・職員等を含めて「みんな」と考えています。

目　次

ごあいさつ　～発刊に寄せて～
小千谷北魚沼福祉会 理事長 中澤和雄・・・・・・1

法人の足跡　～昭和、平成、そして令和への歩み～・・・・・・2

二十数年前の思い出　元小粟田の里園長　山口　恒様・・・・・・6

あおりの里の思い出　元あおりの里園長　吉田安行様・・・・・・8

40周年によせて　元小千谷市養護老人ホーム園長
元ひかり工房園長　杵渕まゆみ様・・・・・・10

40年を振り返って　～開設当時から在籍する職員に聞きました～
小粟田の里　介護職員　吉原幸男・・・・・・12

あとがき　～新たなスタートに～
法人本部事務局長　野澤　敏・・・・・・14

ごあいさつ　～ 発刊に寄せて ～

社会福祉法人 小千谷北魚沼福祉会
理事長　中　澤　和　雄

社会福祉法人小千谷北魚沼福祉会設立40周年。「みんなが笑顔　みんなの喜び　みんなで満足」の基本理念のもと、利用者の皆様が自分らしく地域で安心して暮らせるサービスを提供できているのかを問い直す節目の年を迎えました。

当法人は、昭和57年、１市７町村が中心となり、当時まだ少なかった高齢者施設の開設をめざして作られた法人です。昭和58年、特別養護老人ホーム「小粟田の里」を、平成13年、特別養護老人ホーム「あおりの里」を開園し、平成16年には「小千谷市養護老人ホーム」の指定管理を受託し運営してまいりました。

その後、障がい者支援センター「ひかり工房」を小千谷市から譲り受け、さらに障がい者支援センター「ひだまり工房」を開設し、ともに就労支援事業や生活介護事業などを展開しつつ現在に至っております。

本来なら、この記念すべき節目の年に記念の式典や事業を実施し祝うべきという思いを強く抱きつつも、皆様ご承知のとおり令和２年から新型コロナウイルスの猛威により、施設運営に多大な支障を来しております。一般的には、現在終息に向かいつつあるものの未だこの事業の性質上その終息が見通せない状況が続いています。現状を踏まえ検討を重ねた結果、特別なことはせず、法人が歩んだ足跡を正確に伝えていくことが、受けた襷を担っている私たちの使命であることに思い至り、ここに法人40年の記録誌を発刊する運びとなりました。どうか地域の福祉を巡る理解の一助になれば幸いです。

最後に、法人設立から40年間の円滑な運営にご協力いただきました関係市町村はじめ関係諸団体並びに利用者の皆様、ご家族の皆様等ご支援いただきましたこと心から感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

法人の足跡 ～昭和、平成、そして令和への歩み～

昭和57年８月	社会福祉法人小千谷北魚沼福祉会設立
昭和58年４月	特別養護老人ホーム小粟田の里開設（入所80名・短期入所２名）
昭和63年12月	小粟田の里短期入所定員６名増床 （短期入所８名）
平成６年12月	小粟田の里短期入所定員12名増床 （短期入所20名）
平成11年９月	小粟田の里居宅介護支援事業指定
平成12年１月	小粟田の里短期入所生活介護事業指定
平成12年４月	小粟田の里介護老人福祉施設事業指定

平成13年４月	特別養護老人ホームあおりの里開設（入所70名・短期入所12名） あおりの里介護老人福祉施設事業 あおりの里短期入所生活介護事業 あおりの里居宅介護支援事業
平成16年４月	小千谷市養護老人ホーム管理運営 （小千谷市指定管理者）

平成16年10月	新潟県中越地震により被災（小粟田の里、あおりの里、小千谷市養護老人ホーム） あおりの里から小粟田の里ほか他施設へ緊急避難移送（県内43人、県外６人）
平成18年４月	小粟田の里ヘルパーステーションりぼん開設 （予防）訪問介護事業
平成18年10月	小千谷市養護老人ホーム 外部サービス利用型（予防）特定施設入居者生活介護事業開始

平成19年６月　小粟田の里障害福祉サービス事業開始
　相談支援事業（平成20年３月廃止）
　居宅介護事業（平成31年３月廃止）
　重度訪問介護事業（平成31年３月廃止）
　短期入所事業（平成28年３月廃止）

平成20年４月　小千谷市障がい者支援センターひかり工房管理運営
　就労継続支援B型事業（定員27名）
　就労移行支援事業（定員８名）
　相談支援事業

平成20年８月　小粟田の里ヘルパーステーションりぼん介護保険外サービス開始

平成20年９月　小粟田の里ヘルパーステーションりぼん
　移動支援事業開始（平成31年３月廃止）

平成22年４月　相談支援事業所ひかり　相談支援休止（９月再開）

平成24年４月　相談支援事業所ひかり工房（特定相談・障害児相談）開始

平成23年７月　あおりの里 新潟・福島豪雨水害により被災

◆平成23年　新潟・福島豪雨
あおりの里の建物1階床上浸水（床上70cm程度）
厨房機器、機械器具（エレベーター・給湯・空調等）
使用不能
車輌の水没36台（施設車輌４台、職員車輌31台、
夜間警備員車輌１台）
人的被害なし（利用者の居室は2階のため、外部への避難はなし）。

平成24年11月　あおりの里施設整備（増築）
　相談支援事業所ひかり工房（地域移行・定着）開始

平成24年12月　あおりの里介護老人福祉施設入所定員18名増床（入所88名）
　小千谷市障がい者支援センターひかり工房相談支援事業開始

平成25年４月　障がい者支援センターひかり工房開設

（平成25年３月小千谷市からの受託終了、法人運営に移行）

就労継続支援B型事業（定員27名）

就労移行支援事業（定員8名）

日中一時支援事業

一般相談支援事業

特定相談支援事業

障害児相談支援事業

分場「ひだまり工房」開設

就労継続支援B型事業（定員10名）

平成26年４月　障がい者支援センターひだまり工房開設

（分場から単独運営）

就労継続支援B型事業（定員12名）

生活介護事業（定員８名）

日中一時支援事業

平成27年４月　グループホーム同朋開設（定員４名）（令和４年12月閉所）

障がい者支援センターひだまり工房　生活介護（定員８名→10名）変更

就労継続支援B型事業（定員12名→10名）変更

平成27年７月　障がい者支援センターひかり工房　就労移行支援事業（定員８名→９名）変更

就労移行支援事業（定員８名→９名）変更

平成27年８月　小栗田の里施設整備（増築及びリニューアル）

平成28年12月まで

◆小栗田の里　増改築・リニューアル（平成27年度～平成28年度）

駐車場を移転してショートステイ（18床）と厨房・浴室等を配置した新しい建物を増築。既存建物を大規模改修して建物内の空いた場所を利用者の共有スペース等に充て、建物内部全体をリニューアル（82床）。

増築棟と渡り廊下でつないで施設全体（100床）を一体的に利用。

平成28年４月　　小粟田の里介護老人福祉施設定員２名増床（入所82名）
小粟田の里短期入所生活介護定員２名減床（短期入所18名）

平成28年12月　　小粟田の里 天皇陛下より御下賜金を賜る

平成29年４月　　小粟田の里ヘルパーステーションりぼん
訪問型サービス（介護予防訪問介護相当サービス）開始
訪問型サービスA（緩和した基準サービス）開始
障がい者支援センターひかり工房　就労移行支援事業（定員８名→９名）変更
就労継続支援B型事業（定員27名→30名）変更

平成29年11月　　法人イメージキャラクター「幸福ろう アイちゃん」制作
（地元高校生による公募で決定）

◆法人イメージキャラクター決定（法人設立35周年）

法人として地域の方々からさらに親しみや愛着を持っていただき、イメージや知名度アップを図ることを目的にイメージキャラクターを制作。

若い人達からも法人に関心を持っていただきたいということから、地元の高校生を対象に公募。

・応募数37点。
・入賞作10点の中から最優秀賞「幸福ろう アイちゃん」に決定。
・受賞者コメント
「縁起の良いものとしてフクロウを選び、ハートを描いたもので、
このキャラクターに幸福と愛情を感じていただければと思います。」

令和２年４月　　障がい者支援センターひだまり工房　生活介護（定員10名→11名）変更
就労継続支援B型事業（定員10名→９名）変更

令和４年11月　　障がい者支援センターひかり工房　就労移行支援事業（定員８名→４名）変更

令和５年４月　　法人本部事務局 開設（専任体制に移行）
障がい者支援センターひかり工房　生活介護事業（定員５名）開始
就労継続支援B型事業（定員30名→25名）変更

二十数年前の思い出

元小粟田の里園長
山　口　　恒　様
（平成９年４月から平成 14 年３月まで在職）

法人設立40年、もうそんなにとの思いと、法人所管の施設も多数になり、充実と共に皆様のご努力に感謝申し上げます。私も退職後20年以上経ち、記憶も遠くなりかかっておりますが、原稿依頼を受けて懐かしく当時を思い出しております。

毎朝の居室訪問、おはよう、おはようございますと、少々の会話、話が成立しなくとも気持ちは通じていたと思っております。この当時のお年寄りの年代に私自身がなっております。

また、職員の皆さんには、入居のお年寄りに感謝し、施設建設母体の地域の皆さんに感謝し、皆さんを送り出す家族に感謝の気持ちを持って貰いたいと口癖の一つであったように思います。

在職中に介護保険法が施行になり、大きく制度改正となりました。小粟田の里の看板の脇に3事業所の看板、この書は、書家でもある当時の主任寮母吉村さん筆によるものです。

私もケアマネに挑戦するとしましたが、介護現場の実績無しで無念ということでした。

また、施設長資格は、福祉事務所長の職歴により可と法律規則にあるが、厚労省局長通達文により通信教育で葉山でのスクーリングに参加。何と、修了証書は中央福祉学院のミスで督促の上でいただいた次第でした。

特筆すべきは、あおりの里の開設ですね。事業主体は法人でありますが、自治体との調整、準備室への助言更には指導と難問山積みでした。何とか開設に漕ぎ着けましたが、本当に大変な開設準備～開設でした。その後もあおりの里の皆さんは苦労されたことと思います。

こうやって思い出を書き出すと次から次へと湧いてきますが、このへんで締めさせていただきます。

おたのしみ会（余暇活動）

ボランティアによる軽体操教室

職員学習会

7月　二荒神社祭礼　豊年獅子舞　来園

10月　老雄祭（秋まつり）

8月　盆踊り（夏まつり）

あおりの里の思い出

元あおりの里園長
吉　田　安　行　様
（平成 17 年 4 月から平成 23 年 3 月まで在職）

高齢者の増加に伴い、社会福祉法人小千谷北魚沼福祉会の運営する施設に川口町民の入所枠が少なく、入所待ちの状況が続くことから、当時の町長が特養施設設立に尽力され、平成13年４月開設されました。あおりの里の名称は東川口にある「川合神社」長寿の神である通称「あおり様」からいただいたと聞いています。

私は、平成17年４月から平成23年3月まで６年間勤務させていただきました。

毎年の年間行事は、1月ご利用者への新年の挨拶とお屠蘇の振る舞い、3月ひな祭り、7月七夕様短冊飾り、8月夏まつり、この行事には川口町民の方々から参加していただきにぎやかに過ごすことができました。9月敬老会、11月業者のお寿司実演会、12月ケーキバイキングと年間を通じ各種団体、個人から車いすの清掃や歌踊りのボランティア活動をしていただきました。

平成22年には園開設10周年記念式典を開催しました。

高齢者が増加する状況から、あおりの里も82床から100床に増床したいと考えていましたが、資金面や土地の面積など解決すべき点がありました。

その後、開設10年で２億円程度の資金のめどがつき、当時厚生労働省の通達では新設増設についてはユニット方式しか認めないとのことでしたが、平成21年多床室でも新設増築も認められることになり、増設計画を提案することにしました。

増築場所の候補地は正面玄関前と現在地に絞り検討しました。正面は、花壇や駐車場ロードヒーティングにも重大な影響を及ぼし、施設の景観の悪化を考え、現在地で多床室方式を提案し、事務局をはじめ理事会の協議を重ね決定しました。どちらも一長一短がありました。

工事は次期園長に引き継ぎ、「新潟・福島豪雨」での魚野川の水害もあり、２年後に工事は完成しました。

法人設立40年間の小千谷北魚沼福祉会の運営につきましては、歴代の役員、職員の方々のご苦労に敬意を表し、今後の益々のご発展と皆様のご健康を祈念いたします。

夏まつり

七夕飾りつけ

寿司の日

クリスマス　ケーキバイキング

敬老会

職員学習会（入浴）

40周年によせて

杵　渕　まゆみ　様

平成 20 年 4 月から平成 29 年 3 月まで　小千谷市養護老人ホーム園長
平成 29 年 4 月から令和 3 年 3 月まで　障がい者支援センターひかり工房園長

法人設立40周年おめでとうございます。「光陰矢のごとし」、年月の過ぎ行く速さには驚くばかりです。

私は、昭和58年４月の小粟田の里開設時からお世話になりました。現場で働いた目線から法人の歴史を振りかえりさせていただきます。

当時は、特別養護老人ホームはまだ珍しく、小粟田の里は県内で８番目に出来た施設でした。職員も介護未経験者が多く、ご利用者にとってどんな介護が良いのか手探りの日々でした。また、介護は家族や身内がするものという認識が一般的な時代でした。家族自身も施設を利用することに申し訳なさや、抵抗感を感じながら利用される方が多くいらっしゃいました。しかし、今では介護は一人でするものではなく、社会全体で支えあうものという認識に変化してきて、介護者もサービスを利用することに抵抗感は軽減してきているように感じ、喜ばしい変化だと思います。

開設当時は措置の時代でしたが、平成12年度からは介護保険制度に移行し事業所とご利用者の契約の時代となり、職員の意識も業務内容も大きく変化して行きました。

高齢化が急速に進む中、地域の要望により平成13年度にはあおりの里を新規開設し、平成16年度からは小千谷市養護老人ホームの指定管理者となり高齢者支援の幅を広げてきました。

また、平成16年10月の中越地震は記憶に残る出来事でした。３施設の職員は一丸となりその後のご利用者対応に当たりました。特にあおりの里においては、甚大な被害を受け他施設への一時避難を余儀なくされ、職員も各施設へ分散しご利用者対応に奔走しました。

〈養護老人ホーム〉

春の大運動会

お花見会

敬老会

〈ひかり工房〉

作業風景

就職を祝う会

ラベンダーまつり

外活動（散歩）

更にあおりの里は、平成23年7月には水害にも見舞われ、2度の自然災害の恐ろしさを体験しました。しかし、あの時の大変さが職員の団結力を更に強くしたのだと感じます。

平成20年度には、障がい事業にも新規参入し、ひかり工房は指定管理者を経て法人運営に移行され、平成25年度にはひだまり工房を開設しました。当時は未経験な分野で手探りではありましたが15年の経験を重ね、ご利用者ニーズに沿った事業を拡大してきました。今後も状況に応じた変化が求められる事業と認識しています。

これからも小千谷北魚沼福祉会が、高齢者や障がいのある方にとって、住み慣れた地域で安心して生活して行くために必要とされる存在であり続けることを願っています。

〈ひだまり工房〉

ぽっかぽかまつり

40年を振り返って　～ 開設当時から在籍する職員に聞きました ～

小粟田の里　介護職員　吉　原　幸　男

○ 入職当時の職場の思い出や自身が抱いていた気持ち

当時は介護の「か」の字も知らずに就職しました。社会的にも「特別養護老人ホーム」が認知されておらず、友達や知人からも仕事の内容をよく尋ねられました。

ただ、新規の立ち上げということもあり、職員全員が模索を続けながら施設を作り上げていた感じです。必死だったからでしょうか。あまり不安は感じていなかったように思います。

○ 振り返って一番印象に残っていること

やはり、中越地震でしょうか。当時は川口のあおりの里で短期入所の相談員をしており、仕事を通じて知り合った方々から色々な面で援助していただきました。行政、自衛隊、県内外の福祉施設、ケアマネの方々、そして何よりも職員が利用者の生活を守るために同じ方向を向き行動したという貴重な時間でした。

震災後も何回か講演の機会をいただき貴重な経験をさせていただきました。

○ この40年間における職場や社会の動きなどの変化について

当時は自分の家族が介護施設を利用することが、まだ一般的でなく、家族にも利用することへの後ろめたさがあった時代だと思います。家族だけでなく利用者ご本人にも「お世話になる」という意識が強かったと思います。働く側も県内では、ほとんど男性の介護職員がおらず、うらやましがられたことがありました。

現在は、核家族化・少子化、働き方の変化、医療の進化、高齢化に伴う老齢人口の増加など、それに加え福祉の現場の努力、介護保険制度の導入によって福祉サービスを「利用する」といった意識に変わってきたと思います。職員も男女が平等に働く仕事になってきたと思います。

○ これからの法人に期待すること

介護保険制度の導入、社会、家族の在り方や個人の価値観、人生観などの変化によって介護の現場に求められている価値、役割といったものは刻々と変化をしていくと思います。地域社会の一部として特別な存在ではなく地域と交流できる施設であってほしいと思いますし、そういった変化によるニーズに常にアンテナを張り対応し、ご利用者の人生に寄り添っていける法人であって欲しいと思います。

各施設職員

特別養護老人ホーム　小栗田の里

特別養護老人ホーム　あおりの里

障がい者支援センター　ひかり工房

障がい者支援センター　ひだまり工房

小千谷市養護老人ホーム

あとがき ～新たなスタートに～

社会福祉法人 小千谷北魚沼福祉会
法人本部事務局長　**野　澤　　敏**

私事ですが、社会福祉法人小千谷北魚沼福祉会が設立された昭和57年は、私が社会人としてスタート（別の職場ですが）した年でした。翌年に特別養護老人ホーム小粟田の里が開設され、当時は特別養護老人ホームという施設がどういうものかよくわからないながら、高齢化社会による動きとして感じていたように思います。それから40年。昭和、平成、令和へと世の中が移り変わる中でこの法人が歩んできた道のりを考えると、どれだけ多くの方々から支えていただいことか、つくづくとその重みを感じます。行政や地域の皆様、ご利用者及びご家族様、そしてボランティアの方々など多くの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

記念すべき40年目は新型コロナウイルスの脅威の真っ只中にありました。各施設ともこれまで経験したことのない規制の中で、ご利用者が安心・安全な生活を送られるようサービス提供に努めておりますが、今まで当たり前にやってきた活動が中止を余儀なくされ、運営面で模索を続けています。高齢化とともに少子化が進み、社会全体が変化していく中で福祉の制度も変わり続けてきました。平成12年の介護保険制度の開始により措置から契約の時代へと言われてからすでに20年以上が過ぎました。これからは、高齢者数は増え続けながらも令和22年(2040年)頃には高止まりとなり、一方、社会を支える労働者の数は大幅に減少すると推計されています。社会構造が転換することにより高齢者や障がい者の福祉ニーズやサービス提供のあり方も変わるものと考えられ、法人もこれに適応できるよう変革が求められます。当法人も、特別養護老人ホームの運営から始まり、平成20年からは障がい者支援センターの事業にも取り組み、事業の幅を広げてまいりましたが、社会情勢が大きく変わっていくことを認識し、これからの法人経営を考えていかなければなりません。

福祉ニーズの変化、働き手の不足、感染対策等課題は山積していますが、この40周年の節目を新たなスタートとし、これまで育んできた経験と風土を大切に、法人の基本理念「みんなが笑顔　みんなの喜び　みんなで満足」のもと、地域に貢献できるよう事業を進めてまいります。

今後とも、ご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

発行元　社会福祉法人 小千谷北魚沼福祉会（法人本部）
〒947-0041 新潟県小千谷市大字小粟田2732番地7
電 話：0258-86-5181　FAX：0258-83-2164
E-mail：honbu@ok-fukushikai.com
発行日　令和５年６月